

何があっても変わらないもの

デイ雲柿の木 所長 原口由紀子



開店した売店「これ波これ和」の入り口 営業日は、木・金・土曜日のみ



発行所：ほかにわ共和国
発行責任者：志賀 俊紀
編集責任者：ほかにわ広報部



令和五年度の広報紙「ほかにわ」の表紙のメインテーマは、「何があっても変わらないもの」です。このテーマで表紙を担当する事業所が様々な考えを表現します。



地域の方々から見た「ほかにわ」

蒲河川を挟んで、「デイ雲柿の木」と向かい合う道沿いに中村吉隆さんのご自宅があります。利用者も職員も親しみを込めて「よしたかさん」と呼ばせて頂いています。吉隆さんに「ほかにわ（柿の木）」についてお聴きしました。

Q1. ほかにわ（柿の木）と関わるきっかけは？

増田好次元事務局長（所長）と同じ職場であったことから、志賀理事長と知り合い、会食した際に西有家か有家地区で事業を展開したいという話を聞いて、事業所用物件を紹介した。特に園舎となった元の建物に理事長の著書があり、縁を感じた。

Q2. ほかにわ（柿の木）の印象に変化があったか？

地域に溶け込もうとする意識が理事長にあったため、個人としては好印象を持った。今までトラブルもないし、利用者の方たちも特別なこともなく接することが出来ると感じた。

Q3. ほかにわ（柿の木）に期待することがあるか？

色々な地域活動にも参加しているし、自分達のできる範囲で継続してほしいと思う。島原の乱後、移住者により構成されたことで、住民同士の競争心が良くも悪くも、障害のある方への抵抗があるのではないかという心配があり、事業所が自分の近くにあって良かった。



地域の方に見守られている事に感謝しかないお言葉でした。ご協力、ありがとうございます。（統括 福田恵理）



いつも柿の木ページに掲載している石川さんの絵です



せっかくカラーになったのだから...

新年度最初の表紙担当で、この難しいテーマに悶絶しています。そこで、法人の専門部活動について、私が感じていることを少し書いてみます。様々なご意見があるかと思いますが、広い心で受容してください。

現在法人で活動する専門部は、広報・QC・研修・地域活性の四部門です。専門部の役割は、法人や事業所の社会啓蒙、職員の資質向上、QC手法を用いた問題解決力の習得や地域交流及び貢献等があります。当初は、目的を果たすための方法について、部員同士のブレインストーミングの中で提案された、ちょっとしたアイデアやチャレンジしたい

ことをどうすれば実現できるか試行錯誤して行きました。実行までのプロセスを楽しみ、実現の成功を喜び、そしてその体験を日常の支援に活かせればという考え方で活動を進めていたように思います。

当法人の理事長は、何のために実行するのかという目的を明確にしていけば、その方法はいくらかでもあから、チャレンジすることが大事という考えを持っておられます。

だから、職員の話を傾聴する姿勢は、ずっと変わっていないと思います。上席であればあるほど職場での職員との距離感や孤独感に悩むことが多い中で、職員から受けるチャレンジの相談にどれ程うれしく、

一体感を感じるのか、私も少し理解できます。

つまり、当法人の専門部活動は、トップダウンよりボトムアップの提案を主としたものであってほしいと実感しています。「あっ、面白そう」、「なるほど、それやってみようか」。其々の役割を果たして自分たちの考えが具現化、実行できたときのチームワークの充実感を面白いと認識してほしいと願います。

「こうあるべき」と言った型に拘らず、自立した思考を育成できる活動になるように、私の役割を変わらずに果たしていきたいと考えています。皆さん、専門部の任命を嫌がらないで、一緒に前に進みませんか？

特集

ほかにわの進化の一步

法人事務局長 志賀常盤

法人が設立しもう少しで二十年を迎えようとしています。世の中が少しずつ変わり女性が活躍できる社会の風潮や多様化が求められる時代となり、法人内の規程等々の見直しに取り組んでいます。



令和5年度 辞令交付式にて

その中でも役職名の變更について一つ例に出すと、「主事」「主任」という名称があり、役職の立場は同じでありながら男性と女性で振り分けていました。

それを「主任」と統一することで、性別に係なく才能を発揮してくれる事を期待しています。ほかにわも同一の立場内に複数人存在する形もあり、先のように一人ひとりが余すことなく能力を発揮できる組織づくりに取り掛かりました。

今後の予定として、職務責任の明確化とその評価や給与体系の見直しに取り組んで参ります。

今年度初めての特集では、グループホーム悠炉里での職歴の長い女性職員と職歴の短い男性職員との障害者、仕事に対する考え方の違いなどを尋ねて聞いていきます。

井上翼副主任のご意見

- ① 5年が経ちました。この5年間で一番緊張したことは、ほかにわ大運動会で準備体操の指揮をみんなの前でとった時です。
- ② 当法人に勤めている親戚から、福祉の仕事があると話があり、障害を持った人たちは学生時代を経てその後どのような生活を送っているか、という興味からこの仕事に関心を持ちました。別の職種からの転職だった為、どう接していいかわからない状態からのスタートでした。
- ③ 突発的な行動による怪我や物に対しての破損、情緒面が不安定になる等、これまで経験した事がなく不安が大きかったです。この仕事は大変だと感じることはありますが、利用者から挨拶をしてくれる、話をしに来てくれる等、業務を楽しく感じさせてくれる事も多々あります。
- ④ 利用者として接し、少しずつ距離が縮まっていく事で、障害を持つ方たちを尊重しながら接していきたいと考えようになりました。今年度から副主任となり、現場のリーダーとして一層気を引き締めて、今後も利用者の方が笑顔になれるよう頑張りたいです。



宝釣りの様子

質問①「勤続年数」

- ② 「この仕事に就いたきっかけ・理由」
- ③ 「障害者とは・・・こう考える」
- ④ 「今、自分のやっている仕事は・・・」



ランチ後のくつろぎ

菅原 恵支援員のご意見

- ① 26年間働いていますが利用者さんと会話をしていると新しい発見があり、忙しい中にも楽しさがあります。
- ② 以前、主人が八雲寮に勤めており、グループホームの世話人を募集していると聞き八雲寮へ出向いたのが始まりです。
- ③ 生まれ持ってきた障害と向き合いながら一生懸命に自分の目標の為に生きている方々だと思えます。
- ④ 支援が上手く行えない時は物凄く落ち込んでしまっていますが、周りの職員や多くの利用者へ優しい言葉や救いの手を差し伸べてもらい、今まで仕事を頑張ってきた。私の息子は一人っ子で、小さい時に施設へ遊びに連れて来た時には、利用者のみならず一緒に遊び、行事などに参加したことで、優しく他者への思いやりを持つ事のできる人間に育てくれたのだと思えます。子供が育ってくれたように自分も仕事を通して育てられています。

【まとめ】勤続年数は違えど、障害を持つ方たちに対する思いと仕事への意欲は誰も変わらないものがあるようです。一緒に過ごす時間が長ければ長い程、利用者の為に何かしたいという気持ちが沸き、お互いに成長していく様子がうかがえます。(悠炉里荒木)

ほかにわ共和国の動き

- 6月上旬
法人監事監査
理事会
- 6月下旬
評議委員会
理事会

売りたいかなう

～春と言えばじゃがいも～

じゃがいもの季節がやってきましたね。びっくり箱「春の便」のご紹介です。今回は、長崎県独自の品種「ながさき黄金」をお届け出来るように準備をしております。黄金色が際立つ一品で、煮込んでもいいのですが…やはり、最初は蒸かしたり・素揚げするなどして素材の味を楽しんで頂ければと思います。他にも、島原半島の旨いものを沢山準備しておりますのでご注文よろしくお願ひ致します。

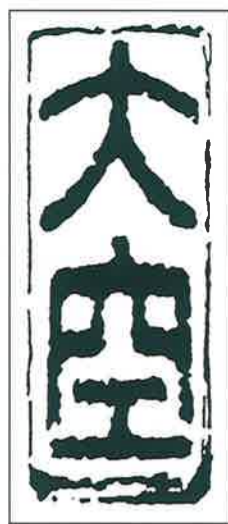
びっくり箱担当 中村 要平

MYROOM MYコレクション

私の宝物は、一緒に暮らす猫の「らる」です。学生時代に保護し、それからずっと一緒に暮らしてきました。当時は目も開いて間もない、片手程の大きさしかない小さな命でしたが、今では十六歳を迎え、人間でいうと八十歳を超えるおばあちゃん猫です。猫の寿命は十五年と言われており、大事な家族であるこの子の命は、人間に比べると短いのです。だからこそ、今たくさんの愛情を与え、そして穏やかな時間を過ごしてもらうことが私にできる精一杯の恩返しだと思います。



ダイ雲 濱田 由佳



一年の集大成

コロナ禍による規制も少しずつ緩和されるようになり、八雲寮としても約三年ぶりに面会日を設けることができました。いつもにも増して、面会当日は利用者の皆さんソワソワした様子でした。久しぶりの面会となり、少し覚束ない様子の方もいれば、今まで会えなかった分を取り戻すかのように話が尽きないなど様々でありました。また、年度の締めくくりとして毎年開催していた活動発表会もここ三年は展示のみの開催となっていました。今年、今年は食堂にて活動を発表する場を設けました。展示物などに写真や名前を見つけると、皆さん誇らしげな表情を浮かべられていたようでした。

来年こそはご家族の前で披露できるように、これからの活動も充実したものにしていければと思います。
(副主任 山田かおり)



福田さん(左)、高倉さん(右) 傑作品

障害者支援施設 八雲寮広報部

今後の行事

5月 帰省(予定)

6月 収穫祭



安心・安全な施設



不審者に対する防犯研修を南島原警察署地域安全課に依頼し3月10日に実施をしました。研修内容としては教材DVDを視聴後、講師より不審者侵入事案に対する備えの説明を頂きました。とにかく大切なのは不審者と判明した場合の一刻も早い110番通報。そのためには普段から危機意識を持つておくことが必要であるとの説明を受けました。最後に八雲寮に備え付けている刺股の使用方を実践していただきました。いつ起こるかもしれないという危機感を持ち支援にあたりたいと思います。



(前総務主事 福田亮)



友遊クラブ作品

創作クラブ作品

植え付け面積拡張～自給自足生活～

千代垣荘では野菜の栽培を始めて数年が経ちました。暑い時期にはピーマンやキュウリ、寒い時期には大根や白菜など、季節に応じた様々な野菜を育ててきました。今回、農芸科職員より「種ジャガが余るとるけん植え付くんですか?」と、声を掛けてもらったのがきっかけで3m程の長さを10列ジャガイモを植え付けました。約3週間後…ひょっこりとお日様に向かって伸びようと、小さな芽が元気一杯に土の中から顔を出していました。順調に育てば5月中旬頃には収穫が可能かと思えます。少しずつ、食べる分だけ掘りながら、自給自足生活を楽しんで行きたいと思えます。(主任 中村 要平)



全自動洗濯機 寄贈

一般社団法人親切会九州支部より全自動洗濯機を寄贈して頂きました。ありがとうございます。

受賞者の代表として、生活班で毎日洗濯作業を頑張ってくれている佐藤浩史さんに受け取ってもらいました。(松本竜平)



がんばらんば宣言

今回ご紹介するのは・・・?



毎日元気な一枝さん。これからも加工班で箱折りの作業を頑張らましようね。

坂本一枝さん

じゃがいも雑感!

春の季節を迎えると共に、コロナ感染症の制限も緩和されることとなり、少し気を遣いながらですが、開放感を感じている今日この頃です。令和五年度が始まり、施設での生活環境も以前の生活のように徐々に戻されていくことでしょうか。これからこうしたい等、思いは様々。「念を入れて生きる」魔法の言葉です。「今の心」です。「目の前にあることを一生懸命やりなさい」と言い換えれば「実践」です。今、目の前にいる人を大事にし、今、目の前にあることを大事にする。

今日というこの一日を大切に生きて。今一度自分に言い聞かせ、今日の日を過ごしたいと思えます。

(管理者 井村一美)

ひやうどじりも

4月号号N12,2009



十八回目を終えて デイ雲活動発表会

デイ雲の活動発表会の歴史を振り返れば、二〇〇五年三月の来年度の活動計画から始まりました。ひな祭り、端午の節句を毎年実施していましたが、これらは子供のお祝い事であり、替わりに年齢に合った活動ができないかと当時の職員間で協議し、以前から行っていた法人の文化祭を事業所レベルで小規模にして開催しようと取り組んだのが始まりです。

く休みがちになるため、活動発表会をあえてこの時期に行うことありました。で、利用の増加を図るとの考えも

発表会も今回で十八回目を迎えることができました。今年の発表会もコロナ感染予防のために外部からは野田保育園、法人内からは八雲寮をはじめ各事業所の映像での出演協力を頂き、誠にありがとうございました。

第一回活動発表会は加津佐町の希望の里を借用し実施しました。その当時は利用者数も少なく、また、二月は気候的にも寒

活動発表会も年数を重ねると、利用されている皆さんの年齢も高くなり、内容を見直す必要が出てきていますが、今後も楽しめる発表会にすることを第一に職員一同取り組んでまいります。

前総務主事 中村久人



今回のオペレッタは全員で「さるかに合戦」に挑戦

旬のいちご狩りを体験！

3月23日、天候はあいにくの雨でしたが、西有家町の「なばやま茶屋ひかり」さんへ、いちご狩りへ出掛けました。ハウスの中には、大きくて甘いいちごがたくさん実り、参加した利用者の皆さんは、自分の手でちぎった採れたてのいちごを「美味しい」と召し上がり感動されていました。

終了後は昼食のために有家町の「かあちゃん寿司」へ。思い思いのメニューを注文し舌鼓をうたれていました。一日を通して、春を感じながらの楽しいイベントとなりました。

竹市裕輝



一年間の締めくくり～3月ホーム活動～

3月、一年最後の思い出作りとしてホーム活動を計画。コロナ禍のために一昨年や昨年ではできなかった外食や店舗での買い物もほぼ自由に行えるようになり、久しぶりの外出で楽しく過ごしました。4月からも作業活動などを頑張ろうと来年度への目標も話されていました。

小山泰彦



林田卓郎さんは、この春高校を卒業され、放課後等デイサービスから生活介護の利用になりました。



来年は二十歳にもなるのでデイ雲での作業活動など頑張っていきたいです。

みんなで春のお出かけ

春休みの3月25日、放課後等デイサービスの児童7名で百花台公園へお出かけしました。車内でもみんなの元気な笑い声が響き、とても賑やかでした。公園では大きな遊具に気分も上がり、夢中で遊ぶ姿が見られました。桜もちょうど見頃で、春の陽気の中子どもたちの笑顔も咲き誇っていました。

中には3月で放デイ利用が終了される方もおり、最後にみんなと楽しい思い出作りが出来ました。



4月からはそれぞれが進級や入学をして、新しい仲間も増えました。今年度も一人一人の心身の成長を温かく見守っていきます。

濱田由佳

雲と虹

行事予定

- 日帰り旅行
- 花見外出
- 手作りおやつ
- 収穫祭

※状況により延期・中止になる場合があります。

さわやかな春の季節。長年携わってきた放課後等デイサービスの児童さんたちも進学や進級をし、そして無事高校卒業を迎えた方もおり年月の流れを感じつつ、今年も新しいお友達を迎え、ますますにぎやかなデイ雲の一年がスタートしています。

新しくやってくる子はどんなお友達かと不安と期待が入り混じる中、下駄箱やロッカーのネームプレートを準備してきました。今年も準備は万端、ところが今回は私自身も事業所から卒業となってしまうしました。この老体は異動先で耐えうるか、心身ともに爆弾を抱えて...心の準備が出来ず、新境地に不安を残すばかりです。

前指導主任 山本智恵美

悠炉里

共同生活援助事業所
(介護サービス包括型)
悠炉里広報誌

4月号

時間の流れに変化あり

悠炉里 施設長 志賀常盤

新たな年度を迎え、これからの事業展開を考えていく転換期と感じています。何故かというところ、当事業所が発足したのは約三十年前、少人数でスタートしましたが、少しずつ新規ホームを増幅し現在五十二名十ホームとなりました。利用者

の入れ替わりがありつつも、開所当時の利用者は高齢化の波が押し寄せています。定期的な見直しを行いながら、状況に応じたホーム体制を構築してきましたが、再編を検討する時期に達しているのではないのでしょうか。よって、利用者にとって住みやすく活動しやすいホーム編成作りに取り組みたいと思います。

コロナ禍も依然として継続中の中

事業運営も利用者支援も、常に変化が伴います。井の中の蛙にならぬよう、変化を恐れず改革する気持ちで精進します。

新規ホーム編成作りに取り組みたいと思います。



(みんなて久々の外出!)

スポットライト



まだまだ頑張ります!

デイ雲職員として18年勤めている松浦光弘さん。普段は入浴支援や作業支援などを行っています。足と右腕を痛めているので、自分の体と相談しながら仕事を続けていきたいと話されています。また、グループホーム帰宅後も夕食の料理をしたりと、頼もしい松浦さんなのでした!

ピザかパスタのどちらかを一品選び、他の料理は食べ放題といった、イタリアン好きには夢のような食事でした!期待以上に大盛りで、食べ盛りの男性陣にはもってこいの昼食に、みんな楽しく過ごしました。食後はサンスパおむら「天然温泉ゆの華」へ。露天風呂が沢山あり、心の底からリラックスできた様子でした。入浴後は白木峰高原で一面の菜の花を楽しみました。満開まではい



(よだれてマスクがヤバイ)

Cユニット(居室移動&手作りお好み焼き)

Cユニット10名、職員3名でホーム内の利用者の状態に応じた居室の入れ替えを行いました。移動後は、みんなで一緒に手作りお好み焼きを作り、フルーツやコーヒーを準備して食事会をしました。お好み焼きを上手にひっくり返す事が出来た時には拍手喝采で、味も量も大満足している様子でした。料理が好きな利用者からは今度の休みに作ってみようかなあとの声も。今回の部屋替えで綺麗になった部屋を汚さないようにしまし

ようね。(田中史子)

今後の予定

- ◎ホーム活動
- ◎グランドゴルフ大会

(主任 大場康生)

Bユニット活動(大村&諫早)



(ゴールはまだまだ...)

日頃の運動不足解消を目的に、Aユニット16名、職員10名で鍛錬遠足に挑みました。3・5・10kmと人それぞれに合わせた距離で、好天気の中気持ちよく歩きました。

お互い助け合いながら全員で完歩!清々しく皆さんの顔が輝いて見えました。その後、雲仙みかどホテルに移動。疲れた体を温泉で癒した後、腹ペコみんなはバイキングを満喫し、さらに笑顔になりました!

マスクなしで自然を感じる事ができた今回の遠足は、皆さんとてもいい気分転換になりました!次の日みんなが筋肉痛に悩まされたのは言うまでもありません“笑”(荒木佳奈)



(はやく食べたいよお~)

「JUNESAY」

三月に開催されたWBC(ワールドベースボールクラシック)が終わり、私はWBCロスになっていました。

野球をしていた私は、毎試合欠かさずテレビに釘付け。一つ一つのプレーに感動するのはもちろんのことですが、今回一番印象に残っているのは、やはり「チームワーク」の良さには誰もが感動したのではないのでしょうか。

全く違う職種ではありますが、「チームワーク」というのはどの職種でも必要不可欠なものだと感じます。

どれだけ能力が高い人でも一人で仕事はできません。必ず相手がいります。思いやる気持ちや一つの目標に対して同じ気持ちで取り組む姿勢。こういった気持ちが積み重なり「チームワーク」というものは出てくると私は感じながら毎日をごしています。今回のWBCでいかに「チームワーク」が大切な事を学びチームの中心として事業所で皆をまとめられる様に今年度も頑張っていきたいと思っています。

(主任 大場康生)

我ち愛

障害福祉サービス
ワークネットやはた
広報誌 4月号

目標に向かって

やはた共育大学の卒業生一名の門出を迎えることができました。生活訓練二年、就労移行支援二年、計四年間で就職に向けて一般常識や仕事への責任感、人との関わり方や職場体験実習を行っています。

卒業生の坂木優太さんの答辞では、「この四年間で、思いやりや仕事に対する厳しさ、責任の大切さを学ぶことができました。老人施設での実習では、利用者の方とのコミュニケーションや職員間との連携について学び、自分自身成長できたと思います。これからも就職するという目標に向けて努力していきます」と述べてくれました。私たち職員も坂木さんの目標に向けてサポートしていきます。(松尾浩道)



卒業証書を手取る坂木優太さん

二月も半ばを過ぎた頃、今年還暦をお迎えになった門下友子さんと二十歳を迎えた山下優太さんを囲み、ささやかながらみなでお祝いをしました。催しは昨年同様、コロナウイルス感染防止対策として、宴の場を回避し、通常の行事食としました。ご自身が自分の生まれた年の干支に還ることとなった門下さんは、みんなの祝福に御礼を述べられました。山下さんは「これから地域生活や就職を目指してさらに沢山のことを学んでいきます」と抱負を語り、目標をもって成長していくという強い意志が伺えました。慌てずゆっくりとこれからの人生を送ってくれることを切に願います。(白石祐貴)

桜散りゆく中で

今年もまた権田の山に桜が咲く季節を迎えました。毎年ではありますが「一年はあつという間だな・・・」とづく思う瞬間の一つがここにもあります。作業が忙しい中で、今年もきれいに咲いてくれた桜を眺めながら、楽しいお昼のひとときをみんなと過ごしました。そして仲良く共に頑張ってきた職員とのお別れもこの場で訪れます。互いに名残惜しい中でも、先に進むための大切な時間。それぞれが立派に成長していくことを願いながら、労いと感謝の言葉を交わし合いました。(林田まゆみ)



人生の節目と...

(林田まゆみ)



New face



竹市共宏さん
八雲寮から異動してきました。工賃アップを目指して頑張ります
趣味：釣り ゲーム



天本直子さん
皆さんと楽しく元気に笑顔でがんばります。
趣味：図書館でゆっくり過ごすこと。



井上辰也さん
利用者の方と楽しく、作業を頑張ります。
趣味：ウォーキング

ワークネットやはた この人



今回は 白石光敏 さんです

- Q) 好きな食べ物はありますか？
「カレーと魚の煮つけが大好きです」
- Q) ワークでの仕事はまだがんばれますか？
「身体が元気なうちはもうちょっと頑張れます」
- Q) ご自宅ではどんなふうに過ごしていますか？
「たまに町内への買い物と毎朝近くの公園を散歩しています」
- 年齢を重ねても元気な光敏さん。いつも率先していろんなことに気付いて手伝ってくれてありがとうございます。これからも元気に通ってきて下さいね。

散歩道

新年度が始まり、新たなスタートを迎え、業務の引き継ぎ、配置等において課題が残るところであります。難しい仕事も「できるために」と考え、自分で仕事の線引きをせず、お互いに協力しながら進めていくしかないと思います。現状を受け止め、自分に何ができるか、自分の弱点を隠さず、少しでも克服すること、職員全体が強力な力になると感じます。一歩ずつ前進していきます。(松尾浩道)

しほは、しれお

石川智広画伯作
『鳥さん』



これはこれわ

いらっしやいませ

プレオープンとして、二月い、「早ようから、建物は出来と十八・十九日、三年ぶりに開ったけん、なんやろうかいと思催された「ありえ蔵めぐり」うとった。」というお客様からおに協賛店として自店出展しま声を多くお聴きました。一日目は、好天に恵ま

本日の開店、大げさに言えば、れ、久三月二日にグランドオープンにし振りようやくこぎつけました。の開催 オープニングセレモニー等せに多くず、宣伝広告も出さず、「ぬるっ」の人出つと開店しました。で賑わ 店内の正面には、特注で作っ

売店では、七福神がお出迎え



デイ雲保護者会から一部助成を頂き焼き芋機を設置



用を思案し 流の場と 地域交 しての活

花一輪をあなたに

令和三年度に上映したDVDから利用者のご家族や友人からメッセージを頂き、エンディングに編集しています。今回は、大きなボールを渡しては投げたリレーしましたが、今回は、一輪のチューリップをカメラの向こうにいる利用者さんに渡すように差し出す演出にしました。色とりどりの色紙で作ったチューリップに思いを込めて、あなたに届けます。(加藤)



まずは、販売したい手づくり品がありましたら、デイ雲柿の木まで、ご連絡ください。お待ちしています。

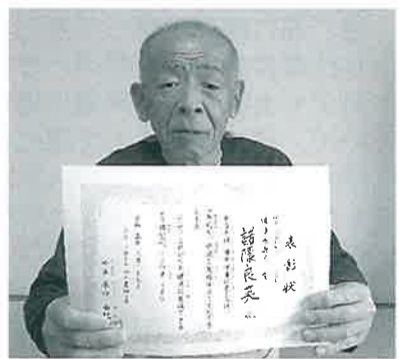
(佐藤)



入学おめでとうの気持ち

四月から、小・中・高校生になる児童、生徒を代表して、大島美咲さんに高校生になる抱負を書いてもらいました。

高木交生になたら、自分ができることをふやして、みずからいろいろなことに、とりくみたい。高木交生とちがうところは、楽しい学校生活をすごしたいです。勉強や作業などでわからないときや、こまったときには自分から先生にきくようにがんばります。せんぱいたちのゆうことをきいて、作業や勉強をがんばりたいです。



受賞した諸隈さん ばんざーい

「健康ばんざい賞」授賞式

グループホームでは、年度末に「健康賞」を発表し、表彰を渡しています。健康的に痩せた方や、水虫が完治した方など、この一年で健康的に過ごされた方へ敬意を表します。

(園田)



今年入学する(左から)城川さん 永友さん 昌汰さん 雅生空さん 美咲さん

私が柿の木に入社した際の放デイの子どもたちは高校生が六名で、登下校の送迎が主であり、学校が休みの日には柿の木を利用する子たちはほとんどいませんでした。ところが、今では子どもの数は増え、小学生の利用も多くなり、学校が休みの日も子どもたちの賑やかな声が響き渡るようになりました。とても喜ばしいことではありますが、人数が増えることと安全性の問題や、スペースの問題。そして、過ごす子どもたちが増え、年齢にも差が出てくると、何をしても過ごしてもらおうかと、頭を抱える問題・課題でいっぱいです。それでも「時」は過ぎていきます。周りの人に力を借りながら、一つずつ着実に解決、突破していきたいです。(恵理)

言の葉

5月の行事

- 3日 バザー※
- 4日 菖蒲湯
- 10日 河川アダプト
- 17日 ホーム活動※
- 24日 誕生会

※印は参加費あり



郷土の偉人、永野萬蔵

口之津歴史民俗資料館長 松本 昇

はじめに

口之津は、有明海の入り口に位置する津、つまり港町である。地名が表わすように、口之津は古くから中国との貿易が行なわれ、様々な船が行きかいていた。それは、口之津に（元々、唐坊と呼ばれていた）東方や、唐人町といった集落があることから窺い知ることができる。

さらに、1562年、時の藩主有馬義直が口之津を開港。すると、1567年、絹織物や香料などを満載し、商人やイエズス会の宣教師を乗せたポルトガル船3隻が入港した。1579年には巡察師ヴァリニャーノが口之津を訪れ、当地で全国宣教師会議を開き、今後の布教方針を決めたり、セミナリヨやコレジヨの設立を提案したりした。

この頃、口之津は交際貿易港としての第1時期のピークを迎えるが、これはひとえに天然の良港に恵まれたおかげである。この天然の良港は、口之津の人々に海外への憧れの気持ちを育てていった。もっと正確に言えば、地理的・経済的状況により、人々は憧れの気持ちをもたざるを得なかったのかもしれない。

後にカナダに渡り「サーモン・キング（鮭王）」とまで呼ばれるようになった郷土の偉人、永野萬蔵も、その中のひとりである。

昨年の2022年が日系移民の145周年にあたることに加えて、子孫にカナダのスケート選手、キーガン・メッシングがいることなどから、ふたたび永野萬蔵のことが注目されている。そこで、森研三、高見弘人著『カナダの萬蔵物語』などを参照しながら、この郷土の偉人について語ることにしよう。



永野 萬蔵

1. 少年時代

今からからおよそ170年前の1855年（安政2）3月27日、萬蔵は父喜平と母タネのあいだに4男として生まれた。タネは夫と二人の息子を送り出すと、自分は近くの畑仕事に行った。その日の午後、急に陣痛が襲ってきた。江戸時代末期の寒村では、畑仕事の最中に産気づいて赤ん坊を畑で産み落とすことがよくあったが、萬蔵の場合もそれに近かった。産気づいて、やっとのことで家にたどり着き、柱につかまって呻いているのを近所の人が見つけ、産湯を沸かす準備をしているうちに、産まれて叫ぶような声を出した。産まれた後に駆けつけた産婆は、赤ん坊の激しい泣き声を聞いて、「龍のように激しい気性をもった子だ」と父親に語ったという。おそらく萬蔵は、生まれつき巨人の素質をもっていたのかもしれない。



萬蔵の生家

他の家々と同様、萬蔵は決して裕福ではない家に育ちながらも、健やかに成長していった。そして様々なことに従事した。13歳になると近くの船大工の見習いになったり、畑仕事をしたりした。また、小舟で早崎海峡の瀬詰近くまで漕ぎ出して魚をとったりした。かと思うと、萬蔵は石炭積み込み船に乗って安い賃金をもらいながらも、貧しい家計の助けになろうとして、汗水たらして頑張った。19歳の頃には、村中の人から「働き者の萬蔵」と呼ばれるようになった。こうした下積み生活を養分にして、萬蔵は強靱な体力と不屈の精神力を備えた人物になっていったのである。

(つづく)

フラットととき



令和五年度の辞令交付式の訓示にあたり、「しんか」の進化・深化・真価を問うことにした。ほかにわ共和国が八幡会より分離・独立して来年度で20年になる。光陰矢の如し、私がダウン症の少年たちと出会ったのは17歳の高校生であった。21番染色体異常がフランスで見られ、わが国に伝播された頃の事であるが、驚愕を覚えたことが今も鮮明に心の中にある。あれから60余年が経過した。時代も変わったが施設の有り様も変化した。しかし知的障害福祉に関して本質的な検証があったか

という点では曖昧な部分がある。それは、翁の理念は変革していないということである。確かに神道福祉文化の視点での深化の議論が未だなされていない現実があるようだ。それは神道と福祉文化の融合点が見える化の検証が未熟だからである。一方神道文化の進化の側面は、戦後保育事業から始まった福祉事業は近年では老人介護の分野にも事業の展開が見えてくる。

さてほかにわの源流はほかにわ共和国の前身八幡会創設者志賀幸村翁及びマサ子刀自の至誠にある。共和国は分離独立したのが平成17年、八幡会の事業展開の時期区分を「結」承「結」とするならば「結」から「結」にあたる。八雲寮は、昭和45年7月創設、49年寮長死去、50年2月理事長死去、第一期「起」から「承」に推移した。昭和64年（平成元年）を起点に15年計画の策定と実行し、平成16年で終了した。

つまり、ほかにわ共和国は、八幡会の第四期「結」を新たな課題の第一期と捉え、筆者が「施設は20年で第一段階の成熟」とする認識からすると、来年度は新たな転機を迎えるが、そうした背景で今年度の辞令交付式の訓示で「ほかにわの only one の進化・深化・真価」を示した。ここで志賀式福祉文化史の三問法で考察してみたい。

まず「進化」と「真価」でクロスするところに、時代の変化に即した事業体の拡大と縮小がある。ここで注目したいのが利用者の数・量的な実態の把握である。次に「深化」と「真価」のクロスするところに、知的障害学の学術的展開の重要性がある。それは、利用者の障害の複雑さと分野をまたぐニーズは、専門性が問われる。さて、「進化」と「深化」のクロスにはどのような要素が出てくるのだろうか。イメージとしては、「多様化した温もりある施設」あり、何事も「おわり」の「はじめ」である。

これは「持続可能な施設体系」などが考えられる。これらを実現するためには何が必要なのかである。つまり3つの「Sinka」のクロスの部分にはほかにわの理念と実践があるのだが、概要を示さなくてはならない。イメージのデザインである。その一つの方法として、『記念誌』編纂を上げた。それは、旧法人から分離独立の方向性を示唆したのは「History」の重要性が問われたからだ。俗に歴史は繰り返されるといわれるが、進化の中には次なる課題が迫っていると認識したい。つまり、何事も「おわり」の「はじめ」である。



平和への思いを込めて

2月9日、長崎原爆資料館でウクライナ支援チャリティーコンサートが開催された。ウクライナのオペラ歌手オクサーナ・ステパニウクさんが出演。東京から高山佳子先生とシンガーズビアンカも駆けつけ志賀作詞の「祈りのまち」を合唱し平和を願った。